

【オフィシャルパートナー企業インタビューシリーズ】

日本ゴールボール協会（JGBA）をさまざまな形で応援してくださっているオフィシャルパートナー企業の皆さまに、各社のお取り組みやご支援への思い、当協会への期待などを伺うインタビューシリーズです。

＜フォスター電機株式会社様＞ [取材日：2026年2月5日]

フォスター電機株式会社は1949年創業の音響機器・部品の総合メーカーです。OEM受託を主力とし、スピーカーやヘッドホン、車載スピーカーなどを国内外の企業に供給しています。また、自社ブランドのFOSTEX（フォステクス）による市販商品もあり、近年はゲーム用ヘッドホンの開発・展開にも力を入れています。

▼公式サイト：<https://www.foster.co.jp/>

2024年4月から当協会のゴールドパートナーとしてご支援いただいています。今回は国内外の拠点におけるサステナビリティ推進や人事、総務を担うグローバルコーポレートサポート本部の3名、望月昭人さん（取締役副社長 CFO 兼グローバルコーポレートサポート本部長）、林舞香さん（同本部経営企画部課長主査）、橋都紗希さん（同本部サステナビリティ推進部サステナビリティ推進課課長補）にお話を伺いました。（以下、敬称略）

▼ゴールボール支援について：<https://www.foster.co.jp/stories/voices/14/>



【写真左から、橋都紗希さん、望月昭人さん、林舞香さん】

■キーワードは、「音」

——パートナー企業にご就任いただいた 2024 年にはパリ 2024 パラリンピックが開催されました。おかげさまで、オリオンジャパンは男女とも出場を果たし、男子は初の金メダル、女子は 6 位に入賞しました。応援、ありがとうございました。

望月

パラリンピックまで約半年というタイミングでの就任となりましたが、素晴らしいご活躍を間近で応援できたこと、本当に喜ばしく思っています。大会前には壮行会を実施し、期間中は全社員に日本チームの試合時間を共有して応援しました。大会後には金メダルを獲得した男子選手 3 名に加え、女子選手 3 名がメダル報告に来社され、金メダルを披露してくださいました。汚さないようにと手袋を用意していたのですが、選手の方から「ぜひ触ってください」とお声がけいただき、大変貴重な体験となりました。当日は約 150 人の社員でお迎えし、選手と直接お話ししたり、金メダルを首にかけさせていただくなど、直に触れ合うことができたことで、ゴールボールやパラスポーツに対する社員の理解も大きく進む機会になりました。

——大歓迎していただいたと、選手たちも喜んでいました。

望月

当社の強みの一つが車載スピーカーということもあり、報告会では選手の皆さんに当社の次世代車載スピーカーを搭載したデモカーを体験いただきました。車内空間が映画館のサラウンドシステムのようになっていて、音に合わせて座席も振動します。皆さんにとっても楽しんでいただき、また、当社ブランド「FOSTEX」のヘッドホンもプレゼントさせていただきました。どちらの音の体験も非常に喜んでくださるお姿から、「音を大切に生活されているんだな」と改めて感じましたし、当社の事業を知っていただくよい機会にもなりました。

——パラスポーツをご支援されようと思われたきっかけについて教えてください。

望月

当社は OEM 企業として「黒子」的な立ち位置でビジネスを展開してまいりましたが、近年は企業として社会貢献活動に取り組む姿勢を自ら社内外に示していきたいと考えていました。また、社員は国内約 500 名に加え、欧米やアジアに広がるグループ会社に約 16,000 人の社員がおり、多様性に富んだ企業でもあります。そこで、この「社会貢献」と「ダイバーシティ」の観点からパラスポーツへの協賛を検討していた折に、当社のメインスポンサーである SMBC 信託銀行様から貴協会をご紹介いただいたことがきっかけです。

——数あるパラスポーツの中で、ゴールボールを選んでくださったのはなぜでしょうか。

望月

何といても、キーワードは「音」であり、貴協会の「『見えない』からこそ、『聴く』を大切に」という基本理念が決め手でした。当社が掲げる「未来社会に音で貢献する」というミッションとの、共通性・親和性を感じたからです。ゴールボールは「音」を頼りにプレーする競技であり、「聴く」ことが競技の本質です。当社が長年取り組んできた「音」に関わる事業や価値観と重なるものであるとともに、製品で社会的課題の解決にも貢献するという目標にもつながるものだと感じました。

「音」のつながりで、選手を応援できるのではないかと考え、社外取締役などにも諮ったところ、「とても良い取り組みだ」と全面的に賛同いただきました。また、ゴールボールの世界ランキングに入っている国々が当社の拠点がある国々とも多数重なり、そういった点も理解された部分です。

■プレーの迫りに圧倒

——ご就任後の、ゴールボールに関連したお取り組みや活動についてご紹介ください。

林

まず、当社社員に対して、ゴールボールや協賛活動についての理解を深めるため、パラリンピックイヤーに合わせてさまざまな企画を実施しました。所沢市での日本選手権大会観戦会の実施や、『音×挑戦』をテーマにした駅構内広告や電車中吊り広告の掲出なども行いました。こちらの広告には選手と当社社員が共に登場し、それぞれ挑戦する姿を表現しました。



FOSTER
Sound to Life

音を届ける企業だから、
音で戦う選手を応援したい

場内中、音を頼りに戦う
静寂の競技ゴールボール
フィールドに立ち度度とゴールを奪う
12分のプレーは「挑戦」そのものです

スピーカのみならず、振動デバイスの開発においても
世界を牽引するフォスター電機
音に向き合い「挑戦」を続けてきた結果
豊かな振動表現を可能にしました

音を届ける企業だから
FOSTER STORES
<https://www.fooster.co.jp/fooster/>

フォスター電機は、日本ゴールボール協会を賛助しています。

また、当社の夏の恒例行事として、社員やご家族など約300人が来場する「納涼祭」がありますが、2024年度はゴールボール体験イベントも実施しました。アイシェードをつけて鈴入りのボールを投げたり受けたりといった体験会でしたが、ゴールボールの難しさや奥深さを体感してもらえたかなと思います。

——観戦会や体験会に参加された方の感想は聞かれていますか？

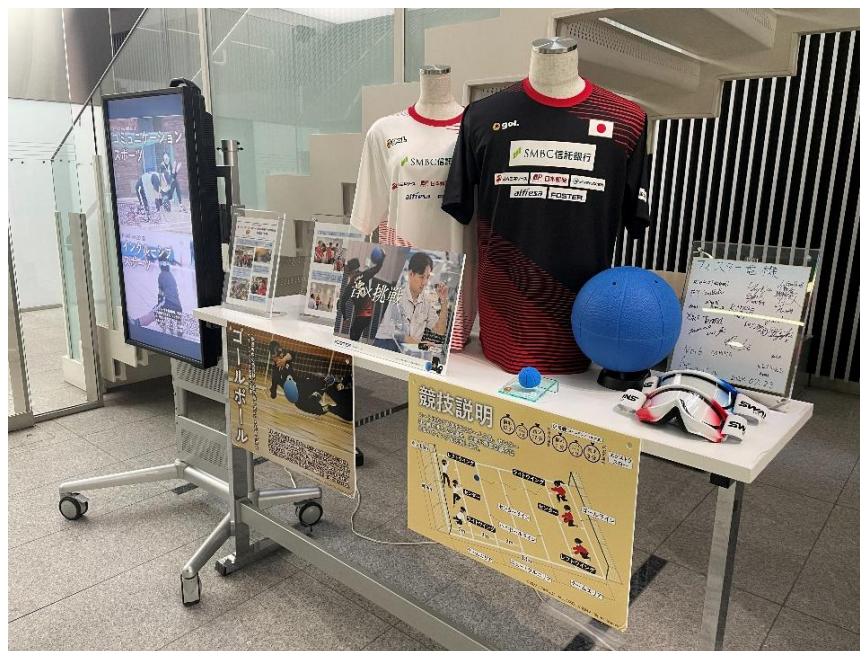
林

観戦会で私が耳にした中で一番印象深かったコメントを、そのままご紹介すると、「正直、パラスポーツへのイメージが完全に覆った。めちゃくちゃ面白かった！」という率直な声です。選手のプレーの迫力が想像をはるかに超えていて驚いたようです。私自身もボールのスピードの速さや、選手が体で受け止めたときのボールの重さまで伝わってくるような迫りに圧倒されました。

——パートナー契約の特典の一つに、「代表選手の派遣権」があります。「納涼祭」をはじめ、体験会や講演会などで、今後ぜひご活用ください。他に、協賛してよかったと思ったださった点がありますか？

橋都

パラスポーツへの理解が進んだことで、社員のダイバーシティに対する意識がより一層向上したと思います。また、当社ロビーにゴールボール関連の展示ブースを設けていますが、ご来社されたお客様から質問されることも多いです。「音のつながり」といった話に興味を持っていただいたり、当社の取り組みを評価してくださる方も多く、嬉しく思っています。



また、新卒や中途採用活動では、「パラスポーツに協賛する企業姿勢に魅かれた」といった応募動機も聞かれるようになりました。

■さらなる関係の深まりに向けて

——逆に、協賛に関連してこれまでに感じられている課題などがありますか？

望月

これは、パラスポーツも含め、スポーツ協賛の1つの宿命かもしれませんが、どうしても「4年に1度」のサイクルがあり、それ以外の年にどう継続的な関わり方を設計し、盛り上げるかが課題だと感じています。

日本選手権など国内大会も開催されていますので、Jリーグやプロ野球のように社会的な認知度を高めるために、どのようなサポートができるか模索している段階です。

パラリンピックイヤーを節目としながらも、その前後の年にも社員一人ひとりが関心を持ち続けられるように努め、協会と連携しながら課題の克服を1歩でも2歩でも進めていきたいと考えています。こうした姿勢が選手のモチベーションを高め、ひいてはパラスポーツへの社会の理解も進んでいききっかけになればと願っています。

——重要な課題をご指摘くださり、ありがとうございます。例えば、JGBAでは初めて、パートナー企業の皆さまを対象とした「2026 ゴールボール パートナー企業交流大会」(*)を企画し、2026年2月に実施予定です。御社もすでにエントリーいただいておりますが、どのような期待感をお持ちでしょうか。(*: 2026年2月7日に実施済み)

林

ゴールボールを実際に体験しながら、競技への理解やパートナー企業の皆様との交流を深められる貴重な機会だと考え、応募いたしました。メンバーは社内で公募し、選りすぐりの1チーム(3名)が参加予定です。サッカーやフットサル経験のある男性社員たちで、ゴールボールは未経験ですが、お揃いのビブスも用意して、「優勝するぞ」と意気込んでいます。

私たちも応援に行こうと楽しみにしております。後日発行予定の参加レポートなどを通して、社内での興味や応援へのモチベーションアップにもつなげていけたらと思っています。

——他に何か、JGBAに望まれることなどあれば、ぜひお聞かせください。

林

2025年6月に、アーティストのゴスペラーズさんがアンバサダーに就任されましたが、「音のつながり」という意味で素晴らしいことだと感じました。当社としても、音楽とゴールボールとの結びつきが深まるとともに、新たな出会いやつながりが生まれていくことも願っています。

また、現時点では企画段階ですが、ゴールボール選手や関係者、そして当社社員による、「アイデアソン」の実施を検討しています。アイデアとマラソンを組み合わせた造語で、新規事業創出などを目的に、特定のテーマに関してアイデアをマラソンのように出し合うものです。以前、全く分野の違う企業様と行ったこともあるのですが、とても活発な議論がなされ、非常に有意義な取り組みとなりました。

そこで、ゴールボールに関わる皆様とであれば、「音」を軸とした幅広いディスカッションができ、新しい可能性が広がるのではないかと期待しています。ここから、選手のお困りごとに寄り添う取り組みなどにつながっていけば、それも新たなサポートの1つの形になるのではないかと考えています。

——とても興味深いですね。「音」は御社にも、また選手たちにとっても重要なキーワードですから、それぞれの視点や経験から「音」にまつわる多様なアイデアがいろいろ出てきそうですし、その先へと広がる可能性も感じます。他に何か新たなお取り組みなどあれば、ご紹介ください。

林

近年、自社ブランド「FOSTEX」として注力している製品がゲーミング用ヘッドホンです。とくに“RP シリーズ”は音の細かなニュアンスや定位感を正確にとらえやすい設計を特徴としており、音楽業界だけでなく、ゲームとの相性の良さについてもプロゲーマーの方々から高い評価をいただいています。e スポーツでは「音を手がかりにプレーする」部分も大きいので、ゴールボールとの共通項も感じています。実はメダル報告会で選手にお贈りしたヘッドホンはこの RP シリーズの製品でした。

——改めて御社とは、「音」をキーワードにしたつながりを感じます。では、最後に、ゴールボール選手たちにエールをお願いします。

橋都

パリパラリンピックは録画して観戦しました。「見えているのでは」と思ってしまうくらい素晴らしいプレーの連続で、接戦の試合には手に汗握りました。そんな試合がまたロサンゼルスで見られると思うと、今からワクワクします。選手の皆さんがケガなく活躍されることをとても楽しみにしています。

林

試合を拝見するたびに、選手の皆様が大きな舞台を目指して日々努力を重ねていらっしゃることを感じます。代表選手に選ばれるのはほんの一握りであり、その裏には同じ目標に向かって

努力を続けている多くの選手がいらっしゃるのだと思います。私たちは、これからもそうした全ての選手の挑戦を全力で応援していきたいと思っています。

望月

これまでにメダル報告会などで何人かの選手とお会いしましたが、お一人おひとりがとても明るく、誠実なお人柄に惹かれる方ばかりでした。日々生活するにあたってはご苦労されることもきっと多いのだと思いますが、そういうものをしっかりと自分で打ち返しながらか、とても前向きなエネルギーをお持ちでした。周囲の方々とのコミュニケーション力を含め、会えば会うほど応援したいと思うような人間的な魅力に溢れた選手が多いと感じています。

これから先も大舞台に向けていろいろな努力をされていくと思います。大きな成果や活躍を祈っていますし、私たちが継続して長い期間応援させていただきたいと思っています。

——熱いメッセージをありがとうございました。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。